



〈慶讃テーマ〉

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2023(令和5)年4月28日 第34号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞

高山市鉄砲町6 TEL 0577-32-0776

web <http://hidagobo.jp> E-mail takayama@higashihonganji.or.jp

「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をお迎えする

人と生まれて—求道者の誕生—

■忘却の彼方

おそらく大半の僧侶は忘れておられるかもしれないが、かつて私たちは漏れなく「人と生まれて」という言葉と向き合ったはずである。

私は縁あって修練のスタッフを10年近く、列座仲間の理解もあり、年に2回一度も欠くことなく参加させてもらっている。修練道場では、「求道者たれ、共に求道者たらん」の願いのもと、仲間と寝食を共にし、宗祖がどのような迷いや悩みを人生に抱えていたのかを、自身の身に重ね合わせて考えていく一週間。そこで親鸞という人が実は、私たちと何ら変わらないひとりの人であることを初めて気づかされるのである。修練で使用されるテキストは一貫して『宗祖親鸞聖人』であるのは、記憶に残っているだろうか？ このテキストの第一章の章題が「人と生まれて」なのである。恐らく大半の人はこの時が、この言葉との初めての出遇いなのではないだろうか。だが残念なことに、言葉と向き合うことなく素通りしてやり過ごすのである。

■答えのない問い

私は大学へ入学して間もない頃、この言葉に向かわざるをえない経験をしたことがある。それはある老人からの問いかけがきっかけだった。

老人「三島君の願いは何ですか？」

私「え・・・？それは夢の事でしょうか？」

老人「否、今日まであなたはどのような願いをもって生きてこられたのですか？」

私「・・・」

予想外の返答に言葉が見つからず、ほんの数秒の沈黙がとても長く感じられた。走馬灯のように自分のこれまでの歩みを点検したのを覚えて

いる。どのように会話を切り上げたのか、何も覚えていないが、只々恥ずかしい気持ちがいっつもでもつづいていた。その時、自分は一度も「人と生まれた」ことを考えず今日まで生きてきたのかと、初めて知らされたのである。

■親鸞の出家

テキスト『宗祖親鸞聖人』では、人の命を「優曇華」に例えている。親鸞は比叡山で初めて仏教に触れていくのだが、この優曇華なる命という言葉は、親鸞にとって厳しい問題提起となったであろうと私は思う。親鸞の出家を象徴する名歌「明日ありと思う、、、」は、実は江戸時代に創作された歌だと、亡き三本昌之氏（蓮徳寺）にお聞きしたことがある。親鸞の出家は、実は養和の大飢饉と大きく関係しており、『方丈記』や『餓鬼草子』の中で当時の悲惨さを垣間見ることができる。都の往来には死体が溢れ、乳飲み子がとうに亡くなった母の乳房を吸いつづけている有様だったようだ。親鸞の面倒をみていた伯父の範綱は、貧しさから半ば強引に親鸞を青蓮院に連れて行ったのかもしれない。道すがら親鸞はどれだけの死体を目にし、同年代の子供達とすれ違ったのかを想像してみ



『餓鬼草子』(国宝) 東京国立博物館
養和の飢饉をモデルに描かれていると伝えられている。

て欲しい。寺の新発意が法衣を纏い、出仕するときのような沸き立つ歓声はなかったと思う。怨念のような眼差しが9才の小さな子に注がれていたに違いない。それはまるで、芥川龍之介の小説『蜘蛛の糸』の主人公の健陀多が蜘蛛の糸を登っている様子を、下から眺めている亡者達の眼差しに近いものだったはずだ。彼の出家を祝う者などひとりもいなかったのである。

■顔向けできない

青蓮院に向かう道中、彼に跨がれた命と、自身の命は等しく「優曇華」のように尊いのだと教えられ、この小さな子は世の現実に、罪の念を抱かざるを得なかったであろう。身分の違いによって、救われることなく死をとげていった命を尻目に、比叡山での生活を謳歌できる者がその後、身をあげて大乘の精神を諦らかにするはずはないのである。私たちが、門徒に顔向けできないような生き方をしたくないと感じるように、親鸞もまた「人と生まれた」ということを真剣に問わなければ、到底あの名も知らぬ亡者達に顔向けできないと、あの小さな子は感じていたと私は思う。それは、私が学生の時に感じた恥ずかしさと重なるからそう言えるのだ。

■求道者の誕生

慶讃法要は、単に850年前に親鸞が誕生したことを祝うことではないと思う。名も知らぬ亡者達の命に向き合う形で、「人と生まれた」ことをたずねていこうとされた、9才の求道者の誕生を祝うのであると、私はいただいている。当時、ひとりも彼の出家を祝う者がいなかったことを思えば、遅ればせながら、そのことを共に讃嘆したいのである。

高山地区教化研究所 研究員

吉城組西念寺住職 三島見らん



★センター・別院からのお知らせ★

宗祖親鸞聖人 御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

3月25日から始まった慶讃法要が4月29日をもって終えることとなる。高山地区各組も、28日の高山1組・吉城組をもって団体参拝を終えることとなる。教区の団体参拝を加えると、高山地区からは約520人の方にご参拝いただいたこととなる。身近なところではあるが、参加された何人かのご門徒の方からは歓びの声をお聞きしている。



法要を終えることとなるが、しばしホッとすることはお許しいただいたとしても、それで眠ってしまうことがないようにとも思う。3月号の内記浄氏の寄稿に触れて、『宗門白書』(昭和37年)の「御遠忌を迎えて、われらは一体何を為すべきかの一途が明らかでない。宗門全体が足なみをそろえて進むべき態勢が整うているとはおもわれない。このままでは御遠忌が却って聖人の御恩徳を汚しはせぬかとの声をも聞き胸をも打たれる次第である」が回想される。(耳なれずめ)

高山別院 新責任役員改選

高山別院責任役員任期満了に伴い、高山1組不遠寺住職四衛亮氏、高山2組了心寺住職白尾公信氏の両氏が、2023年3月20日開催の院議会臨時会において全員一致で承認されました。任期は2026年4月まで。

前責任役員、高山1組専念寺小原正憲氏は3期8年、荘白川組浄念寺照元興圓氏は3期7年と別院のために特段のご尽力を賜りました。篤く厚く御礼申し上げます。

帰敬式法座受式者による奉仕団を実施



4月21日から23日に帰敬式法座受講者に呼びかけた奉仕団として、本山の慶讃法要に参拝しました。団体参拝に参加された方が多かったこともあり、5名のみの団体でしたが、その分親密な関係ができて、ゆったりとお参りすることができました。教導の先生から、「私たちは、生かされて生きている」ことをあらためて教えていただきました。

高山別院寺宝館企画 紙粘土胡粉塗り彩色人形等の作品を新たに常設展示

この度、別院寺宝館内に紙粘土胡粉塗り彩色人形作品等を、新たに常設展示させていただきました。作品の制作者は、市内下一之町在住の橋本君子さんです。人形作品61点、レリーフ作品13点、どの作品も出来栄が素晴らしく、一点一点じっくりと見ていただきたいです。展示は4月28日より開始しております。開館時間:午前9時から午後3時まで



■問題となる宗教性—善知識だのみ・秘事法門②

<秘事法門>

それ越前の国にひろまるところの秘事法門といえることは、さらに仏法にてはなし。あさましき外道の法なり。これを信ずるものは、ながく無間地獄にしむ業にて、いたずらごとなり。この秘事をなおも執心して、簡要とおもいて、ひとをへつらいたらさんものには、あいかまえて、あいかまえて、随逐すべからず。いそぎその秘事をいわんひとの手をはなれて、はやく、さずくるところの秘事をありのままに懺悔して、ひとにかたりあらわすべきものなり。

(『御文』二帖目十四通 聖典792頁)

今度は、法を説いてくれる仏陀がないという形になります。法を説く人がいないと、僧伽に来た人は特別な体験や儀式によって法に直接触れるということが必要となります。何か特別な経験をしたり儀式をすることによって、光が降ってき

たとか言って、特別な救いの証^{あかし}を求めます。教えを説く人がいないんですから、聞いて一緒に確かめるということがありませんから、法に直接触れるための特別な体験や特別な儀式を必要とします。

ですから、法に直接触れるような特別な儀式や体験をすることによって、その僧伽は、自分たちの秘密の儀式や体験にして保持します。そういう形で、開かれたものではなくて、非常に排他的で秘密主義になります。これは現代で言えば神秘主義というものです。

教えを聞き確かめ合うのではなく、特別な体験で救いに触れようとし分かつとします。その結果、誰の上にも確かめられる法ではなく、特別に選ばれた者の宗教になります。さらに仲間うちの秘密の技法とされ、神秘的なベールの中で宗教性を誇示し、従わないものには「祟りがある」と脅す力にもなります。真宗では、こうした在り方を「秘事法門」ということで問題にしてきました。

■仏教(釈尊)教団に入門することの確かめ点

同朋教団としての確かめ点としての三帰依

仏と法と僧伽というものがきちんと確認されない時に、宗教というのは大きく歪んで、人を歪ませるものになります。その関係を生きる者は、すべてそうなります。仏と法と僧伽ということが、共に同じ大きさで同じ高さで出会うということとして開かれるということが、教えを確かめていく大事な視点です。そのことが破られたときに、宗教は宗教の姿をとりながら、最も宗教から遠いものに変質してしまいます。

だからこそ、お釈迦様は仏法僧という形で、帰依三宝という形で、我々がどのように教えを確かめるのかの「確かめ点」を、示されておられるのだと思います。

そういうことが、帰依三宝ということの大事な点ではないかと思っています。

高山1組 不遠寺住職
企画会議副座長 四衢 亮



飛騨御坊ホームページ『ひだご坊一口法話』5月

橘 出氏 (教区駐在教導)
池田 英作氏 (高山1組了泉寺門徒)



WEB一口法話はこちら

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

新任駐在教導 中川唯真 着任の挨拶 家族みんな温泉大好き!

4月1日付で高山教務支所駐在教導を拝命しました中川唯真(なかがわ ゆいしん)と申します。出身は滋賀県の守山市、前任地は長崎教務支所(九州教区)になります。妻と小学生になったばかりの娘と一緒にやって来ました。



妻の実家が石川県七尾市にあり、昨年滋賀から飛騨高山を北上して近くを通る機会がありました。学生の頃は入ることがあったこの辺りの温泉も、長崎勤務だから入れないよな…と思って通過しましたら、凶らずもこのたび転勤となり、高山の地で学ぶ機会を頂戴しました。皆さんの声を聞いて宗務に取り組んで参りたいと思いますので、ぜひご指導ください。家族で温泉好きな中川です。どうぞよろしくお願いいたします。

※橘駐在は、本年6月末まで在任しております。



飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2023年5月行事予定 ※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
1	月			
2	火			
3	水	13:00	別 三日のご坊 法話:森 恒河氏(秋声寺住職)	本堂
4	木	7:00	別 半日華	
5	金		七 子どものつどい in 東本願寺	本山
6	土	19:00	組 高山1組親鸞教室③	研修室
7	日			
8	月			
9	火	13:30	教 高山支部坊守研修会	研修室
10	水			
11	木	13:00 同	別 大谷婦人会定例 法話:三島多聞氏(輪番) 組 高山2組坊守会学習会③	御坊会館 研修室
12	金	13:30	組 高山2組組会	研修室
13	土	7:00	別 前住上人ご命日	本堂
14	日			
15	月	7:00 13:30	別 半日華 別 ご回壇御使僧会議	研修室
16	火	13:00	教 坊守会高山支部役員会	研修室

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
17	水		連 東海連区坊守研修会	三重
18	木			
19	金	13:30	教 教化研究所課題別講義 講師:近松 誉氏(本廟部長)	研修室
20	土	19:00	組 高山1組親鸞教室④	研修室
21	日			
22	月			
23	火			
24	水			
25	木			
26	金	7:00	別 半日華	
27	土	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂
28	日	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:野崎尚齊氏(西正寺住職)	本堂
29	月	19:00	教 教化研究所	研修室
30	火	13:00	教 教区坊守研修会	郡上教会
31	水	15:30	組 高山1組組会	研修室

2023年6月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
3	土	19:00	組 高山1組親鸞教室⑤	13	火	13:30	組 高山2組組会
7	水	14:30	七 企画会議				